

動き出した生産者育種 その様々な展開

㈱サカタのタネ 西日本支店 久保田 芳久

第22回2005花葉サマーセミナーは7月23日(土)~24日(日)に、会場は昨年同様、飯田橋駅近くにある千代田区富士見の日本歯科大学本館・富士見ホールにて開かれました。参加者数298名(うち幹事、講師、記者、発表者、学生等関係者計96名)。

今回のテーマ「生産者育種」は、昨年の「もう安売りは御免だ! 進む花の産業革命をつかまえる」の締めくくり、安藤教授の講演にあったキーワード「生産者育種のすすめ」から発展した形で企画されました。

育種は国や研究機関とするもの、種苗会社とするものがあるなか、「生産者育種」をどう捉えるか、そして成果をどう生かすか。その中で本日の講師とその内容の意義・どこを聞いて欲しいかを長岡幹事長から挨拶とともに紹介され、開会となりました。

7月23日(土)

「生産者育種の仕組みをまじめに考える」

千葉大学園芸学部 教授 安藤敏夫氏



今回掲げたテーマの「なぜ」と「意義」と農家や普及員の「取るべき姿」につき、現在の状況や環境を精細に捉えた上で、かなり論理的に「まじめに」展開された内容となりました。

花卉産業は超多品目であり、F₁品種を除いた多くは幼稚な段階でしかなく、対象は数限りがないのです。よって論点は「片手間育種の勤め」であり「育種は手

段であり目的ではない」とし、育種の魔力に取り付かれないことを警告しました。育種圃場は金を生みません。生産圃場が育種圃場で占められ、貧困に陥ったケースもあるからです。

狙い目が示されました。種子系やF₁は考えず、栄養系で行こう、文化の違い・感性の違いからバタ臭いものの中の日本に向くもの、栄養系の種子を播く、発達した花卉に野生種を交配、としてそれぞれ実例が挙げられました。その簡単さに「瓢箪から駒!」、あの人のあの品種がと、皆驚いた様子でした。

育種したものの扱いやその奨励に関し、種苗会社、地方自治体、農水省、生物多様性条約などとの関連やそれらに望むことが示され、「播いたことのない種子を播く」として締めくくられました。

「生産者育種を支えるブルーリボンの伝統とシステム」

福岡県農業総合試験場豊前分場長 小林泰生氏



昭和13年に設立された花卉生産者の連合組織である福岡県花卉園芸組合連合会(福岡県花卉連)において、新品種の育成助長、権利保護、普及促進などを目的に「福岡県新品種審査会」が設立されております。この会が設立された背景や目的、果してきた役割、登録された新品種の内容などについて紹介されました。

審査の採点項目は国の種苗登録制度と異なり、区別性、均一性、安定性の他に観賞価値はもちろんで、商

品価値や市場性により重点が置かれました。そして優秀と認められたものは90点以上でブルーリボン賞、80~89点がピンクリボン、70~79点をイエローリボンとして表彰しています。新品種審査会で登録された218件のうち、ブルーリボンが71件、ピンクが94件、イエローが53件です。対象品目は切花・鉢花にわたり、和洋幅広いものです。

坂本元蔵（天明～寛永）により行われた久留米つづきの品種改良に始まる伝統は今日まで生かされています。今活躍中の有力な方やグループの紹介が行われました。また今後の展開方向として行政の技術支援を含めたビジョンが示されました。

「産地育成に生産者育種を生かして 想いがかたちになる時」

兵庫県立農林水産技術総合センター園芸部
研究主幹 宇田 明氏



淡路島は花の産地として古くから栄え、名をとってきました。キンセンカむらじ等の固有品種は関西でしっかり定着し、他の品種では関西市場に通じません。しかし、特別な個人がなくて成立した、地域の衆が成した成果であり、福岡県の有力個人の育種と性格を異にします。今回の副題「その様々な展開」とし、異なるパターンに研究機関として深く関与してきた宇田さんに講演いただきました。

その生産者育種を3種類に分類し、ピラミッド構造の頂点に企業的育種を据え、5%の有力農家の場としました。底辺は種子採り育種で、直売所など品種や花色、形質のばらつきにこだわらない仕向け先形態で、「できちゃった育種」としました。

そして今回の提案が「宝くじ共同購入育種」です。どちらにも属さない180%の農家を対象とします。交配に向く時期、農家は出荷に終われ、選抜・交配・採種ができません。宇田氏等が交配して種子を採るとバケツ一杯の種子が採れました。この中からいいものを選

抜するには、より多くの面積に播かないと、なりません。これを農家に配り、播いてもらい、皆で選ぶというのです。よって宝くじの確立で良いものが出るため、宝くじ共同購入育種といえます。

しかしこの問題点も現場の苦勞人としてしっかり列挙しました。意欲の持続性、むらのあいまいな責任体制、指導者の移動、公務員主導の県庁向き（実より名）安易な技術志向、捨てられないなど、多数です。3年以内の新品種育成と、コツコツと息長い取り組みを説きました。

「自分でチャレンジ！ 種苗登録」 千葉大学環境健康都市園芸フィールド科学センター 渡辺 均氏



法律家や農水の立場でなく、実際に育成植物を登録した人の経験による、農家でできる種苗登録の方法を講演して頂きました。できちゃった育種であっても登録はできますよという内容です。必要な書類、書類の作成、出願、調査、登録と登録料の納付などです。そのときになってあわてるのが対照品種の入手だそうです。わからない時はFAXなどで種苗課品種登録班に問い合わせると丁寧に教えてくれるそうです。

「三步先に行くアメリカの花壇苗産業 新時代の花弁育種」

ボジャーシーズ
チーフリーダー 有光芳郎氏

育種を取り挙げる以上、農家の簡単な交配を進める中、きっちりした育種の話、本格的なプロの技法と問題点や仕事を紹介することも必要と捉えました。花の先進国アメリカに渡り、花の育種で数々の成果を挙げられた有光さんに来日いただき、本場の話を披露していただきました。



有光芳郎氏

近年史として Cloude Hope氏、Chlrles Weddie氏、John Mondry氏の事を紹介し、アメリカが如何に早くからベディングプラントの改良に力を注いできたか実感できました。営業育種にポイントを絞り、育種親や原種の収集、育種に取り掛かるプロセス、選抜について、交配に関して、品質検定など、具体的に植物の画像まで用いて説明していただきました。特にマリーゴールドやジニアには並々ならぬ労力と工夫、技術開発が行われたようです。最近の栄養系と実生系の接近・協力の事、企業ブリーダーで扱えない品目の個人ブリーダー品種の登場などに話が及び、特に個人の方へのアドバイスをいただきました。

総合討論

途中の講演での質問も含め、熱心な質疑が行われました。「種苗登録されたものでも育種に使えるのか」の辺りに多くの普及員が釈然としないものを持っていることが分かりました。この受け答えには農林水産省の生産局種苗課課長補佐石川君子さんにも答弁頂き、詳しい説明をしていただきました。

7月24日(日)

「私はこうして育種成果を経営に取り込む」

㈱末継花園 代表取締役 末継 聡氏



前日の講演を受け、具体的事例として、トルコギキョウの自家交配品種を経営に導入して注目されている若い切花生産者の末継氏に、その経営を発表していただきました。

末継氏のユニークな点は圃場の隅の僅かな面積で交配と採種を行い、種子が実る間、ユリの切花に支障なく圃場を回していることです。経営面積に占める比率は0.3%以下。手軽にこなしながら、市場の欲しがる品種をだしていることです。

「吉村ブランドを支える私の育種と経営スタイル」

㈱ワイルドプランツ吉村

代表取締役 吉村人志氏



元気いっぱいの講演でした。吉村氏の半生とそのエネルギーが紹介されました。飽くなき植物への興味とその商品性発見に卓越した感性をもち、それを交配、選抜にいかし、微生物農法と絡ませ、成果をあげています。圧倒される時間でした。

「インターネットによる

新遺伝資源の探索と導入 part 」

千葉大学名誉教授 横井政人氏





種苗会社自慢の新品展示コーナー



会場風景



総合討論は活発に行われた



1階ホールにおける懇親会

第18回サマーセミナーでのインターネット活用植物探索が好評であったことから、今回のテーマに則り、part が企画されました。今回は実際に探索しやすいよう、Yahoo、Googleの使い方に始まり、A. 全体的な検査項目、B. 植物各論・検査項目、C. 夢の植物探索・育成・遺伝・育種の3部に編集されました。丁寧な説明に、使い方の解った聴衆が多かったと思います。

初日に震度5強の千葉県北西部地震があり、怖い思いをし、またエレベーターが止まり、8階の会場から1階の懇親会場まで階段で降りていただきました

た。また国電も止まり、ダイヤが混乱する中、ご不自由をおかけしましたが、整然と行動していただいたことに感謝いたしました。

育種という構えがちですが、このセミナーを聞かれた方は、“入りやすい”という、なんらかのきっかけを得ることができたと思います。

テキスト購入ご希望の方は、代金2,000円（送料込み）を添え、下記へお申し込みください。

〒271-8510 松戸市松戸648

千葉大学園芸学部花卉園芸学研究室内「花葉会」事務局

TEL:047-308-8810 郵便振替：東京5-13341 花葉会